

平成 28 年 9 月 23 日

保護者様

大阪府寝屋川高等学校定時制の課程
准校長 大森 孝志

麻疹（はしか）について

日ごろは、本校学校保健活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。
9月に入り、関西国際空港において麻疹（はしか）の集団感染事例が発生しました。
つきましては、以下の内容についてご確認いただき、各ご家庭で予防にご協力いただきますよう
よろしくをお願いします。

◆◆◆感染しないために、予防接種は2回必要です◆◆◆

まず、予防接種回数をご確認ください。

平成2年4月2日以降に生まれた方は、定期接種として2回受けていると思われませんが、受けていなかった方もおられます。また、それ以前に生まれた方は、1回の接種のみの場合が多いと思います。もう一度、接種回数をご確認いただき、どちらかよくわからない方は、麻疹の抗体検査を受けてください。抗体がしっかりある人は、予防接種の必要はありません。

2回目の予防接種については、居住地の保健所、または医師にご相談ください。

※現在 ワクチンの供給が不足傾向にあります。事前に医療機関に接種できるかどうかご確認ください。

～麻疹（はしか）はこんな病気です～

麻疹（はしか）は、感染力が非常に強く、病原体（麻疹ウイルス）が体内に入ればほぼ100%発症します。そのときに、予防接種で抗体がしっかりあれば発症せずすみずみ。発症してしまった場合は、治療方法がなく、最悪の場合は死に至ったり、重篤な後遺症が残ることがある怖い病気です。

感染経路

飛まつ感染：感染者のせきやくしゃみで飛ばされた飛まつ（細かい水滴）を周りの人が吸い込むことによる感染
空気感染：飛まつの中の水分が蒸発して乾燥したものが空気中を漂い、それを吸い込んでしまうことによる感染。
接触感染：ウイルスが付着した物体に触れた手を介した感染。

※いろいろな感染経路があるので、マスクや手洗いだけでは感染を防ぐことはできません。
予防には、予防接種が一番効果があります。

潜伏期（感染してから症状が出ない期間）

ウイルスが体の中に入ってきて10日～12日後に症状が出ます。

症状

カタル期：カタル症状とは、38度ほどの発熱、咳、鼻水、くしゃみなどといった風邪に似た症状と、目やにや充血といった結膜炎症状が現れ、それらが次第に強くなっていきます。また、口の中の頬の裏側に、「コプリック斑」と呼ばれる白いブツブツも現れます。
感染力はこの時期が一番強い。

発疹期：熱は一旦下がりますが、すぐに39度以上の高熱が出る（3～4日続きます）と同時に、赤い小さな発疹が現れ、次の段階である「発疹期」に入ります。
発疹の色は、出た順番に、鮮紅色→暗紅色

回復期：解熱。全身状態の回復。発疹は色があせてきて、色素沈着がしばらく残ります。
7～10日後に合併症がない限り回復します。

合併症

脳炎と肺炎が主な死亡原因になっています。麻疹にかかると、体力を消耗し、抵抗力が下がるので、細菌などにも感染しやすくなります。

（参考）麻疹の予防接種

第1期：1歳児

第2期：小学校段階入学前1年間の幼児

～もしもかかってしまったら～

麻疹は学校感染症→「**出席停止**」になり、登校できません。

- ◆麻疹と疑われる症状があれば、早めに医療機関を受診しましょう。
- ◆医療機関を受診する場合は、受診の前に、医療機関に電話連絡をし、受診方法を確認してください。
- ◆麻疹と診断された時は、必ず学校へご連絡ください。
- ◆診断後は、医師の指示に従って治療に専念しましょう。



44歳以下の方で、発熱、風邪の様な症状、目の充血、発疹等があれば麻疹の疑いがありますので、医療機関へ連絡の上、受診をお願いします。

また、同居の家族の方で麻疹と診断された場合も学校までお知らせください。

